きもの文化の海外発信をめざした浴衣の着装を含む授業実践とその効果の解析

発表者：井野　真友美
指導教員：薩本　弥生

1．目的

情報手段が発達し、日本に関する多くの情報がテレビやインターネットなど様々な手段で世界に発信されている現代であるが、日本の伝統文化を海外へ発信していこうとする学校現場での教育的取り組みは現時点ではあまり行われていない。そこで今回は、きもの文化の海外発信プロジェクトの一環として、アメリカ合衆国のサンフランシスコにある中学校、高校、大学の浴衣着装ワークショップを行った。今回事前調査では日本の現代文化や歴史文化についての知識やきものについて学びたいこと、事後調査では浴衣を着た際の着装感や、理解・習得・興味についての調査を行った。また、サンフランシスコでの実践の前に、本校に在籍する留学生とその家族にも同じ内容の着装ワークショップを行った。その際にも同じように事前と事後でアンケート調査を行った。本研究では、これらの実践を通して得られた結果や、実際に体験を通して気づいたことなどから、海外の人々に今回のような授業実践を行う際、日本での大西らの実践のように高揚感を高めることが，興味・関心の高まりにつながるのかについて検証するとともに，どういったことに気を配り、どのように内容を工夫すれば日本の誇る伝統文化であるきものの魅力を海外の人々に最大限に伝え、興味を持ってもらうことができるのかについて検討していきたい。

2．方法

調査期間：2012 年 8 月 7 日（横浜国立大学在学の留学生向けワークショップ）
2012 年 9 月 22 日～29 日（サンフランシスコでのワークショップ）

調査対象：

	男性	女性	合計
留学生	5	15	20
大学生	2	50	54
高校生	22	24	46
中学生	24	25	49

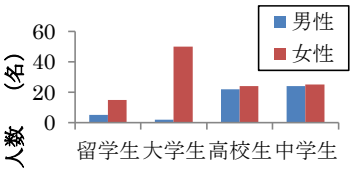

図1　調査対象人数

ワークショップ内容：①　事前アンケート実施
②　きもの文化の紹介
③　浴衣着付け示範の演示（図 2）
④　浴衣の着装体験
⑤　事後アンケート実施

図 2　着付け示範の様子

3．結果及び考察

3.1．事前調査の結果及び考察

事前アンケートの内容としては，日本の現代文化と伝統文化についての認知度とそれぞれの情報源，着物について知りたいことの 5 項目を複数回答可で調査した．現代文化では海外の生徒もマンガやアニメなどで知っている割合が高く，情報源ではインターネットの割合が最も高く自分で関心をもって調べている生徒が多いことが示唆されたが，伝統文化になると，やはり日本で暮らす留学生の方が、知識が広いようだ（図 4）．また，伝統文化の情報源としては「TV」と並んで「学校」と答える人が多く，伝統文化の伝承に関する学校の役割の大きさが示唆される結果となった（図 5）．

a　高校

図 3-b　中学校

図 3-c　大学

図 3　サンフランシスコ各校で実施したワークショップ後の集合写真

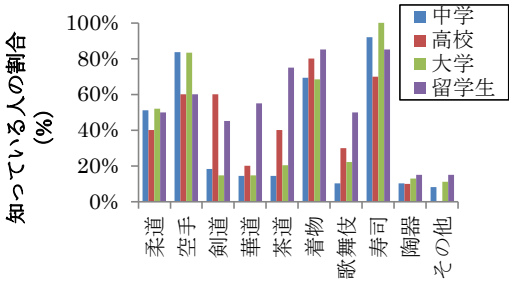

図４日本の伝統文化の認知度

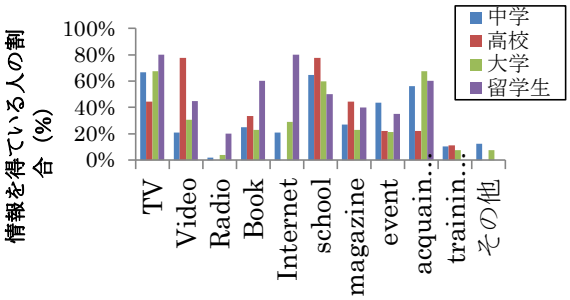

図５伝統文化情報源

3.2. 事後調査の結果及び考察

事後アンケートでは浴衣を着てみての「着装感」や「興味・意欲」,「理解・習得」などに関する 19 項目を５件法で調査した．因子分析を行い因子を抽出したところ，各々の学校で少しずつ異なる因子が抽出された．それらの因子を元にパス解析を行った結果を各々大学（図６），高校（図７），中学校（図８）に示す．昨年度に大西らが日本で行った実践では理解習得意識および高揚感が興味・関心に影響しているという結果が得られたが，今回、理解（習得）因子からのパスは各校で有意であったが、高揚感から興味関心へのパスが有意だったのは大学のみであった．どの学校でも浴衣を着て嬉しそうな生徒たちの笑顔が印象的で，実際に高揚感に関する項目はいずれの学校も高かったのだが，それが興味関心に結びつかなかったというのは，現段階での海外で行う実践の限界を示しているといえるだろう．

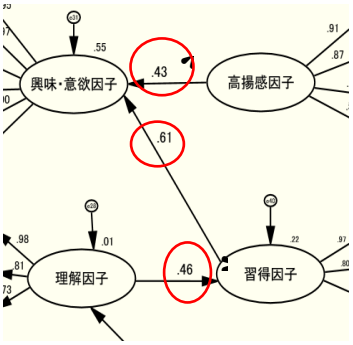

図６．大学因子相関パス図

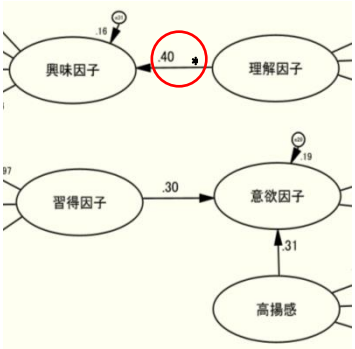

図７．高校因子相関パス図

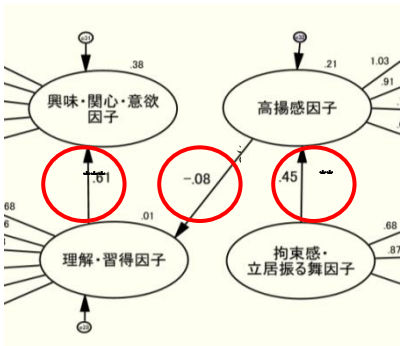

図８．中学因子相関パス図

しかし，参加者が全員希望者でワークショップの雰囲気も盛り上っていた本校の留学生とサンフランシスコの高校生のワークショップでは，高揚感が他の２校に比べ高く，それにともなって意欲に関する項目も高くなっていた．また，この２校は比較的時間に余裕があったので，留学生のワークショップでは着付け後に浴衣で学内を散策する時間を設け，高校ではお茶を立てて何人かが飲んでみるといった時間を設けた．この結果から，ワークショップに対するモチベーションの違いと，着装後の活動が，高揚感やその後の学習意欲にも影響していることがわかった．さらに，日本の伝統文化について知っている数が多い人と少ない人で比較するために，４校合同で「伝統文化認知度」を定め５個以上知っている人を高値群，それ以下を低値群として分類したところ，高値群の方が意欲項目が高くなっていることが分かった．

3.3. おわりに

今回ワークショップを通して感じたのは，海外の人々にきもの文化を紹介する中で，自分自身が日本のきもの文化に対して誇りと愛着をもてるようになったということだ．

グローバル化が進む現代の世界で，まずは自国について知り自国の文化に誇りと愛着を持つことで初めて他国の文化を尊重できるのであって，今回のような自国の魅力を感じられるこういった取り組みをそれぞれの国が行っていくことこそ，世界平和への近道となるのではないかと実感した．